

コーエーテックモのサステナビリティ

当社は存在意義として掲げる「創造と貢献」と「Level up your happiness」のもとで、経営戦略とサステナビリティの連動を図っています。2025年度には、サステナビリティ開示基準（SSBJ基準）への対応を中心に、人的資本・気候変動・情報セキュリティの各分野で現状把握と方針整備を行いました。

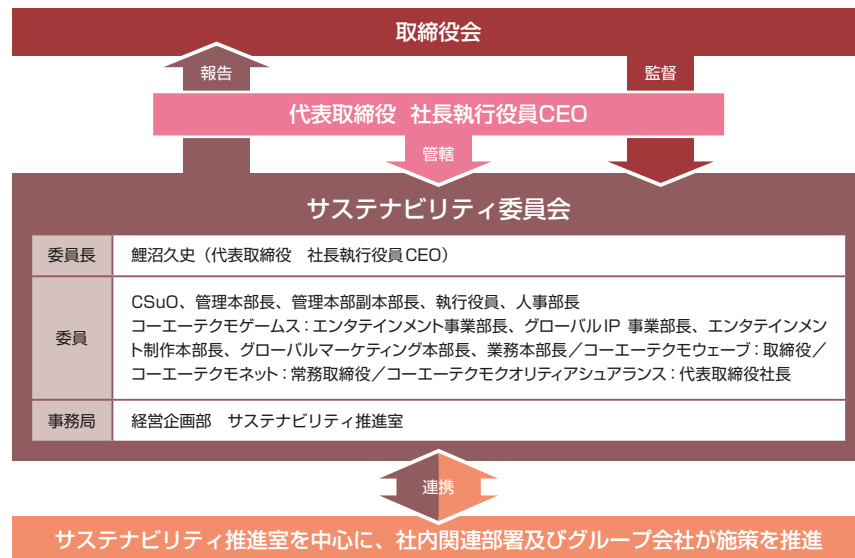
サステナビリティ基本方針

コーエーテックモグループは「創造と貢献」の精神のもと「新しい面白さ」を創出し、世界中の皆様の心の豊かさや幸せに貢献することを存在意義とします。私たちを支えてくださるさまざまなステークホルダーの期待に応えるように、社会課題へ積極的に取り組み、「人」を中心に考え、企業価値向上と持続可能な社会を目指します。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、当社社長が委員長を務め、CSuO（Chief Sustainability Officer）、当社並びに国内グループ会社の各事業部・本部の責任者が委員となります。

サステナビリティ委員会では、サステナビリティに関する方針及び戦略、取組事項について四半期に1回以上、定期的に審議し、決議を行います。サステナビリティ委員会での審議・決議の内容は定期的に取締役会に報告し、取締役会が監督を行っています。



2025年度の主な審議事項

会議体	実績	主な審議内容
取締役会	計1回	2024年度サステナビリティ委員会の活動及び有価証券報告書におけるサステナビリティ項目の記載方針を報告
サステナビリティ委員会	計4回	計4回の審議を経て、「育成すべき人材像」の改定、人的資本に関する指標と目標、情報セキュリティ基本方針、SSBJ基準とマテリアリティの重複範囲等を決議

CSuO メッセージ

当社は、持続可能な社会の実現に貢献するため、サステナビリティの観点で中長期的な経営戦略に取り組んでいます。2024年度に特定したマテリアリティのもと、事業を通じた成長と社会課題の解決の両立を目指し、現在、マテリアリティごとのKPI策定を進めています。

サステナビリティ活動の中でも、当社の価値創造の中心になるのは「人」です。新しい価値を生み出す人を育て、多様な人材が力を発揮できる環境を整えることが、事業の成長とともに、社会へ提供する価値向上にもつながっていると考えています。

これからも、コーエーテックモグループの持続的な成長を追求するため、サステナビリティに積極的に取り組んでまいります。



常務取締役 CSuO
襟川 芽衣

コーエーテックモグループは、気候変動による事業への影響を把握し、TCFD 提言に基づく情報開示を進めています。2024年度に行ったマテリアリティの見直しにおいて、当社グループにとっての重要度等を総合的に検討した結果、気候変動に関する課題は、現段階ではマテリアリティに該当しないとの結論に至りました。また、シナリオ分析において、定量リスク及び短期的な定性リスクが総じて低い結果となりました。一方で、中長期的には気候変動に対する取組が必要と考えており、今後も継続的に対応を続けてまいります。

ガバナンス

気候変動に関する課題を全社の環境課題の一つとして捉え、サステナビリティ委員会で定期的に審議・報告を行い、取締役会へ報告しています。決議・確認された内容は、不動産部を中心に、関係部門が連携して施策の検討・実行を進めています。

気候変動に関する審議・報告事項

取締役会

- 2024 年度サステナビリティ委員会の活動報告として、Scope 1・2・3 実績について

サステナビリティ委員会

- 2024 年 3 月期 有価証券報告書サステナビリティ関連開示 Scope 1・2・3 実績について
- 温室効果ガス排出量の現状報告
- 温室効果ガス排出量の削減施策の他社比較と今後の対応方針

戦略及びリスク管理

当社は、2024 年度に、気候変動が事業・財務に与える影響を把握するため、1.5℃シナリオと4℃シナリオを想定し、移行リスク、物理的リスク、機会を短期・中期・長期で分析しています。

移行リスクと物理的リスク

移行リスクについては規制強化等に伴う調達及び売上への影響を、物理的リスクについては自然災害等に伴う調達先及び保有資産への影響を対象として分析を実施しており、定量的評価の結果、財務影響は限定的であると評価しています。

機会

省エネ設備や再生可能エネルギーの導入拡大、業務のデジタル化による生産性向上に加え、環境負荷低減に配慮した製品・サービスへの需要増加を事業機会として認識しています。事業環境の変化を踏まえながら、これらの機会を事業成長や企業価値向上につなげていきます。

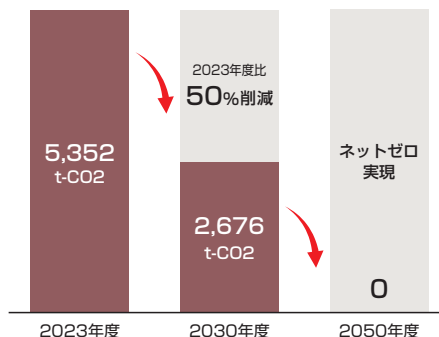
移行リスク					物理的リスク				
分類	影響先	短期	中期	長期	分類	影響先	短期	中期	長期
現行の規制	調達	中	高	高	急性リスク	調達	中	中	中
	売上	低	中	高		売上	低	低	中
新たな規制	調達	高	高	高	慢性リスク	調達	低	中	中
	売上	低	高	高		売上	低	低	中
法規制	調達	中	高	高	機会				
	売上	低	低	高	市場	調達	低	高	中
技術リスク	調達	中	高	中		売上	低	低	低
	売上	低	高	中	レジリエンス	調達	中	高	中
市場リスク	調達	中	中	中		売上	中	中	低
	売上	低	中	中	資源の効率性	調達	低	中	中
評判リスク	調達	低	中	中		売上	低	高	中
	売上	低	高	中	エネルギー源	調達	中	中	中
						売上	低	高	中
					製品・サービス	調達	低	高	高
						売上	低	高	高

詳細はコーポレートサイト「[サステナビリティ](#)」[🔗](#) で開示しています。

指標と目標

気候関連リスク・機会への対応指標としてGHG 排出量を設定しています。自社排出となる Scope 1・2 は、2030 年度までに 2023 年度比 50%削減、2050 年度までにネットゼロを目指し、省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの購入等を進めていきます。

Scope 1・2 の GHG 排出量推移 (目標)



温室効果ガス排出量 (実績) (単位: t-CO2)

分類 / 年度	2023	2024	2025
Scope 1	127	112	122
Scope 2 (マーケット GHG 排出量)	5,225	5,464	5,999
Scope 3 (合計)	94,861	81,200	108,179

Scope 3 のカテゴリ別の内訳 (単位: t-CO2)

分類 / 年度	2023	2024	2025
カテゴリ1 購入した製品・サービス	69,500	55,411	54,619
カテゴリ2 資本財	4,208	3,634	25,044
カテゴリ3 Scope 1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー活動	1,309	1,337	1,610
カテゴリ4 輸送・配送 (上流)	833	1,131	925
カテゴリ5 事業から出る廃棄物	93	123	31
カテゴリ6 出張	76	101	295
カテゴリ7 雇用者の通勤	613	671	693
カテゴリ11 販売した製品の使用	17,445	18,029	24,059
カテゴリ12 販売した製品の廃棄	90	70	210
カテゴリ13 リース資産 (下流)	694	693	693

ステークホルダーとの価値共創

当社グループは、株主・投資家との建設的な対話を通じて経営の透明性を高め、その声を経営に活かしています。また、マテリアリティ「新たな価値を生み出す人材の育成」「心の豊かさへの貢献」の実現に向け、職業教育や大学での講演、当社IPを活用した地域貢献・地方創生に取り組み、多様なステークホルダーとの価値共創を目指します。

地域社会とのつながり

職業教育活動による地域貢献

地域の小・中学校に「まちの先生」と題し、第一線のクリエイターを講師として派遣して、ゲーム制作の仕事についてご紹介する職業教育活動を実施しています。日頃詳しく知ることができない、プログラマーやプランナーなど多様な職種のメンバーが協力してゲームを作っていく様子をご紹介します。また、シンガポールにおいても現地法人がシンガポール情報通信メディア開発庁の教育プログラムに協力して学生に向けた授業を実施しています。



シンガポール情報通信メディア開発庁の教育プログラム



日吉台中学校での授業

大学での経営トップ・技術者による講演会

ゲームソフト開発やAI・ゲームエンジンといった最新技術などの専門分野の紹介のほか、ゲーム産業の動向や会社経営についてなど、企業の知見をご紹介する講演を大学で行っています。また、将来社会で活躍する人材の育成を念頭に、大学にて寄付講座なども実施しています。



早稲田大学での襟川会長の講演



役員による東京科学大学での講演

タイアップによる地域貢献、地方創生事業

健康増進や交通安全運動、サイバーセキュリティの推進など、地方自治体や公共団体が進めるさまざまな啓発活動に協力しています。RPGの人気キャラクターや戦国武将などのご当地キャラクターなど、当社IPを使ったタイアップを通して、地域社会への貢献と地方創生事業への参加を行っています。



神奈川県健康医療局と
コラボレーションした
未病改善ポスター



栃木県立美術館と
コラボレーションした
「ゲームと美術」のポスター



神奈川県警察と
コラボレーションしたサイバー
セキュリティ月間のポスター

株主・投資家との コミュニケーション

IR活動方針

株主との対話全般は、代表取締役社長執行役員CEO及びCFOを中心として対応しております。機関投資家・アナリストについては経営企画部、個人株主については総務部が、それぞれ事務局を担当し、株主と経営陣との対話を補助しております。株主と対話を行った際は、その結果について、定期的に取り締り会等で報告し、フィードバックを実施しております。

主なIR活動実績（2025年度）

活動内容	実績
アナリスト・機関投資家向け個別ミーティング	167回
決算説明会	4回
スモールミーティング	3回
証券会社主催カンファレンス	3回
株主向け事業説明会	1回

主な対話のテーマ

- 決算概況（概要、発売タイトルの動向・評価、業績予想との差異）
- 次期業績見通し（業績の前提、発売予定タイトル）
- 第4次中期経営計画の目標・戦略
- 長期ビジョン、中長期の成長戦略
- ゲーム市場の動向及び観測
- 当社のビジネスモデル及び競争優位性
- 資本政策の方針
- サステナビリティ（ESG）に関する取り組み
- ゲーム業界における生成AIの影響